

2020年9月13日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

<学科試験>

■出題傾向

一部に過去の形式と異なる問題が出題されたが、基本的には過去問と類似した問題が多く、従来と比べて大きな変化はなかった。

■問題のレベル

選択肢の一部に細かな知識を問うものが散見されたが、どの科目においても基礎知識を問うような問題が多く、総じていえば従来と同レベルといえる。

■特記事項

問題4の財政検証は専門的な知識を問う問題であり、難易度がやや高かったと思われる。また、貸借対照表に関する問題が問題10と問題40で出題された。頻出の3,000万円特別控除および軽減税率の特例に関する問題が今回は出題されなかった。

<実技試験>

■出題傾向

従来どおり、過去に出題された問題の類似問題が多く、出題傾向に大きな変化はなかった。『タックスプランニング』は従来よりも多く、7問が出題された。

■問題のレベル

一部にやや難易度の高い問題も含まれていたが、全体としては基本的な知識を問う問題が多く、従来と同レベルといえる。

■特記事項

問20の小規模宅地等の評価減の特例は近年の改正事項が初めて問われた。また、外貨定期預金を円転したときの金額、自宅の土地および建物を売却したときの課税長期譲渡所得の金額などの定番の計算問題が今回は出題されなかった。

<総括>

学科試験は、どの科目も従来から問われていることが多く出題されているので、基礎知識をしっかりと習得した受検生にとっては得点しやすかったと思われる。

実技試験は、目新しい問題や設定を複雑にした問題はあるものの、過去問を中心にしっかり対策をとっていれば、十分合格点に到達できる内容であった。今回の実技試験は計算問題が少なかったが、計算問題が多いと正解を導き出すまでに時間がかかるので、時間配分も合格する上で重要なポイントとなる。

※このシートは、2020年9月13日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。